

6つの方向性

1 市民が中心となり魅力を発信

まちづくりには地域への愛着が大切であり、駅を中心とした市民の巻き込みと、それと同時に外部からの人の呼び込みが重要となります。那須塩原駅は、観光客のみならず地域の人も那須全体を楽しむことのできる拠点である必要があります。

2 歴史を活かしたまちづくり

那須野が原の開拓の歴史は、まさにこの地域のアイデンティティであり、これまでも大切に語り伝えられ、今日の市民生活に息づいています。日本遺産にも認定されたこの歴史をこれからのまちづくりにも積極的に活かしていく必要があります。

3 景観を前面に押し出した駅前あり方

駅を降りた後に広がる素晴らしいスカイラインと那須連山の景観をもっと活かすべきです。駅前については、大掛かりな施設が必要というわけではなく、さまざまな要素が集まったパッチワーク型の施設があり、そこで地域全体のことが分かることができれば、駅前の雰囲気を変えることができます。

4 テクノロジーの活用

テクノロジーの発展によって、まちづくりの定義が変わってきています。先端技術をまちづくりに積極的に取り入れていくことで、人々や機会が多く集まり、まちそのものに活気を与えることとなります。テクノロジーと自然の相乗効果により那須塩原のブランド力を高めることで、今後のさらなる持続可能な発展が期待されます。



亜細亜大学都市創造学部長
まつおか たくこう 氏
松岡 拓公雄 氏



筑波大学名誉教授
おばせ れいじ 氏
小場瀬 令二 氏



東京都市大学環境学部特別教授
おくい しろう 氏
涌井 史郎 氏



宇都宮共和大学副学長
やましま てつお 氏
山島 哲夫 氏



那須塩原市長
わたなべ みちたろう 氏
渡辺 美知太郎 氏

5 工場跡地の有効活用

ブリヂストン黒磯工場跡地は駅から約1kmの距離に位置し、主要な幹線道路が通る交通の要衝であり、地理的にも重要な位置にあるため、本市ひいては栃木県北地域の拠点としてふさわしいまちづくりを目指すための有効活用が求められます。なお、当地で現在計画されている太陽光発電所の建設は、民間事業者が民有地において適法に進めている事業であり、事業者と地権者に対し、慎重に対応していく必要があります。

6 那須塩原市役所の新庁舎

新庁舎は、環境型オフィスとして率先して先端技術を活用していくことが考えられます。また、新庁舎は市の象徴であるため、市の文化・歴史やアイデンティティを感じることができるようなおものであるべきです。今後は特に市民活動の結節点としての市役所という役割が重要となることから、さまざまな機関との複合的な整備という方向性も考えられ、市民の集まりやすいオープンな場所であることが求められます。

那須塩原駅周辺まちづくりビジョン ～栃木県北地域全体の中心地・玄関口へ～

将来における人口減少にしっかりと歯止めをかけ、栃木県の北都の玄関口にふさわしい那須塩原駅周辺のまちづくりや整備を推進するための「那須塩原駅周辺まちづくりビジョン」。その策定のために、今年度は外部の有識者などで構成する有識者会議において検討を重ね、今後のまちづくりの方向性について、「那須塩原駅周辺まちづくりに関する報告書」としてまとめました。▶問い合わせ 企画政策課 ☎0287(62)9254



※那須塩原駅周辺まちづくりに関する報告書はホームページで公開しています。

那須塩原駅周辺のまちづくりにおける方向性を明らかにするため、那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議を立ち上げ、5回にわたり議論を重ねてきました。

有識者会議においては、長期的な視点に立って、駅周辺を那須塩原市の中心地、栃木県北地域全体の中心地、玄関口としてふさわしい場所とすべく、まちづくりのあり方について検討を行ってきました。報告書は、有識者会議で重ねた議論を踏まえ、今後の駅周辺における持続可能性を見据えたまちづくりの方向性についてまとめられました。

今年度まとめた方向性を基に、来年度は市民の皆さんと一緒に議論を重ね、「那須塩原駅周辺まちづくりビジョン」として取りまとめます。

報告書で示された6つのまちづくりの方向性は、今後のまちづくりビジョンの策定などを通じて、具体的な駅周辺の将来像を明らかにする上での指針となります。

